

魅力ある県立高校づくり懇話会（第5回）議事録

- 1 日 時 平成25年1月30日（水曜日）10時～12時
- 2 場 所 県民健康センター 3階中会議室
- 3 出席者 渋谷座長、藤池副座長、小杉委員、熊谷委員、中村委員、戸ヶ崎委員、
工藤委員、山本委員、大出委員、佐藤委員

4 議 題

魅力ある県立高校づくり懇話会報告書案について

(魅力ある県立高校づくり懇話会報告書案について事務局から説明)

座 長 説明への質問はあるか。特にないようなので、内容的な議論や熟慮の上での修正等も含めて、皆さんから意見をいただきたい。やはり私たちが色々と知恵を絞りながら進めてきた議論の最終報告であるため、全員が責任を持って、これによろしいという認識にしたいと思う。最初にタイトルの『更なる県立高校の活性化・特色化に向けて』について何か意見はあるか。

委 員 「更なる」はどうかと思う。これまでの既成の路線の延長が「更なる」である。報告書案の最後で、ハードからソフトへの転換、ということも言っているため、「更なる」はちょっと誤解を与えるのではないか。内容を皆で吟味した後にまた議論してはどうだろうか。

座 長 それも良いだろう。では、1ページ目の『はじめに』であるが、何か気付いた点はあるか。

委 員 家庭教育の問題も色々と議論されたと思うが、「少子高齢化」は家庭の問題にちょっと繋がる部分もあるので「核家族化」の文言を入れたらどうか。

座 長 少し踏み込むと、家庭の教育力の低下の議論もあったが、そこまでは表現せずに「核家族化」という表現に留めておくことでよいか。

委 員 それでよいかと思う。「少子高齢化の進展、グローバル化」と書かれているが、「少子高齢化」の後ろに「核家族化」と入れたらどうか。

委 員 ちょっとその点について異論がある。核家族化はずいぶん前から言われていて、私はむしろ3行目の「地域コミュニティの弱体化」と並列して、家庭の教育力が弱くなったことを書いた方がよいと思う。

委 員 今の意見のとおりでよい。

座 長 確かに核家族化は以前から進んでいる現象かもしれない。それではどのようなフレーズがよいか。

委 員 「地域コミュニティの弱体化」の次に、「家庭の教育力の低下」と入れればよいのではないか。

座 長 他にこの『はじめに』で気付いた点はあるか。

- 副座長 『はじめに』の2段落目に「更なる県立高校の活性化や特色ある高校づくり」という表現があるが、先ほど、発言のあったタイトルの「更なる」と同じ表現なので、場合によっては文章を変えなければいけない。
- 座長 『はじめに』について他にあるか。特になければ先に進めるが、Iの『これまでの県立高校の活性化・特色化の取組について』で、最初に『これまでの経緯』があるが、何か気付いた点があるか。
- 副座長 気になっているのが、活性化という言葉である。活性化とはどのようなことかももう少し詳しく説明する必要があるのではないだろうか。非常に難しい表現であると思う。他の人は理解しているのだろうか。
- 委員 確かに御意見のとおりだと思うが、これまでやってきたことなので、報告書の中で説明するとなると、以前のことも詳しく書かなければならなくなってしまう。
- 座長 既にタイトルのところで「更なる」が問題になっているが、議論する中で「活性化」についてもまた考えていきたい。先に進みたい。『これまで設置されてきた特色ある高校について』である。
- 委員 総合学科のところで、「目的意識が曖昧な場合、生徒が自由的に科目を選択するシステムが十分に効果を発揮しない点も課題」はいいが、その課題に対する解決が、高校選択の問題と整理されているのは違和感がある。確かにこの問題も挙げられたが、生徒が科目を選択するシステムを十分に発揮できない状況にならないよう、高校側がやらなければならない部分があったのではないかと思うが、進路選択の問題としか書いていないため、若干バランスを欠いている気がする。
- 座長 上で書かれている総合学科の説明と、下のところで挙げられている総合学科の課題が対応していないということか。
- 委員 総合学科とは、入学してから主体的に選ぶプロセスであるのに選べていない課題がある、という指摘は正しいと思うが、入口が違ったのでないかという話になっているのは違うと思う。ミスマッチを防ぐことについて述べている文章はいらぬのではないか。
- 座長 その前の「システムが十分に効果を発揮しない点も課題として挙げられる」で留めていいのでは、という指摘である。
- 委員 ミスマッチを防ぐことが解決方法になっているが、それは課題に対応していないような気がする。
- 座長 もし書き込むとしたら、高校のカリキュラムや学習指導上の工夫といった内容を加えたらどうか、という話か。
- 委員 書き込むとしたらそれも加えなければおかしい。中学と高校の連絡が悪い点も確かにあるかもしれないが、それ以上に、総合学科は入学してからしっかり

指導する必要があるのに、体制が十分取れなかったなどの要因が何かあると思う。

座長 他の委員はどうか。専門学科の項では中高の意思疎通が強調されているが、総合学科についても似たようなことがあるのだろうか。

委員 確かに、高校側の改善がもっと必要とは思いますが、以前にも述べたように、学科の特性や普通科との違いが中学生や保護者にまだ十分理解されていない点が問題である。この一文で十分とも思うが、下で連携が必要であると更に強調されているのも頷けなくはないと感じる。高校側の課題の記述が挿入されていれば、先ほどいらないと意見のあった部分があってもいいかもしれないが、それもちよっとくどい気もする。

委員 中学生がどこまで考えて総合学科を選んでいるかは、ちょっと分からない。総合学科の特性以外の、入試の状況や学校の部活動など他の要素で選んでいる中学生が多いのではないかと。確かに、総合学科はよく分からない部分が多いのではないかとこの気がする。

委員 ここは、これまでこのようにやってきました、しかしまだ課題もあります、という内容だと思う。だから、課題まで留めておいてよいのではないかと。解決策や改善策は、これから順次述べていけばいい気がする。例えば、中学生やその保護者への情報発信は、総合学科のみならず専門学科でも、あるいは普通高校でもあてはまると思うので、それは後にして、ここは課題まで留めておくのがよいのではないかと。

座長 大変良い指摘であった。報告書の構成から考えるとその通りだと思う。他に如何か。

委員 細かいことであるが、中高一貫教育校の「特色ある取組の成果を他の学校へ」は、市町村立中学校と明記しておいてもらった方がよいと思う。

座長 事務局に訊くが、この「他の学校」は何を意味していたのか。

事務局 高校も含むと考え、このように表記した。

委員 高等学校も含めて、「市町村立中学校や高等学校」としておく必要があるのではないかと。

座長 市立高校も入れて「市町村立中学校もしくは公立高校」の方が誤解がないだろう。クリアに表現したいところであり、良い指摘であった。他に如何か。なければ、次の『県立高校の学校規模について』である。

委員 社会的自立のところにも同じような文言が出てくるが、「社会に出るにあたり高校教育課程の修了がほぼ必須のものとなっている」という表現は、必須であればそれは義務教育になってしまうので、ちょっとまずいのではないかと。代替案を挙げるならば、高校教育課程を修了していないと不利益が非常に大きいなど、事実を述べる表現の形に変えた方がよい。

- 座 長 「前提」という言葉を使うのはどうか。「不利益」という言葉だと、教育は利益、不利益の問題なのだろうかと感じる。
- 委 員 労働市場に出たときに、仕事の選択範囲が非常に限られてしまっている事態である。
- 座 長 「不利」というのはどうか。
- 委 員 「不利」でもよい。何か事実で表現するという話である。
- 委 員 3段落目に「通学費用が負担となっている家庭がある」と書いてあるが、授業料は無償化となっているが、制服など入学時の費用や、PTA会費、後援会費や部活動等の諸経費を負担に感じている家庭も実際ある。そのようなものも含む意味で、「通学費用等が」と、「等」を入れたらどうか。
- 座 長 「等」を入れて、今の意見を生かしていくことでよいか。細かいところであるが、7ページの上から3行目に「少ない人数にする」とあるが「人数」がちよっと気になった。ここは定数の話をしていて、2行目にも「1学級の数」とあるが、私は「定数」の方が収まりがいい気がするが、どうだろうか。
- 委 員 2行目も「定数」にするのか。それとも「人数」のままか。
- 座 長 2行目は「人数」のままでもいいのではないか。そこは日本語として通りのいい方にして欲しい。
- 事務局 修正いたします。
- 委 員 他のところで、6ページに「地域によって生徒の流出入」とあるが、「地域によっては」と「は」を入れた方がいいと思う。
- 座 長 その方がよいと思う。他に如何か。では、先に進めていきたい。ここから私たちの提言になる。『これからの県立高校の活性化・特色化について』とあって、活性化という言葉についての議論もあるが、内容にかかる意見も受けたいと思う。項目の柱を立てて整理されているが、私たちが論じていた課題はこの他にもあったかどうか。
- 委 員 この大きな柱でなくていいが、地域の中の県立学校、という視点をどこかに入れておく必要があると思う。ぜひ、そこは欲しいところだと私は思っている。
- 座 長 新たに柱を立てるまでは必要ないか。
- 委 員 既に取り組んでいる学校もあるので。
- 座 長 ではそこは留保して、もし不足気味であれば改めて指摘して欲しい。①②③とすっきりと項目を立てているが、その下に「また」でつないで専門学科について触れているが、これは④にははいけなかったのか。
- 事務局 文章の順序を整理して、①②③④に整理する形もあると思う。
- 座 長 他はよいか。では9ページの『学力向上について』であるが気付いたことがあるか。
- 委 員 9ページの「教育を施す」という表現は、上からの目線に立っているように

思う。それからもう一つ、10ページの「目標等を設定する取組は」とあるが、ミッションを掲げただけではなくて、それにしたがってプログラムを実施していると思うので、目標設定の部分だけを取り上げるだけでいいのか、と少し思った。

座長 私は、その3行下に「なお」とあって、そこで「PDCAサイクル」があるので、ある程度目標設定はやっているけれど、成果検証までが十分されているかどうか問題である、という意味に読み取った。

委員 なるほど。目標設定はやっているけれど、という話か。それならいいのだが、目標設定はしているが他のことはしていないのか、とってしまったということで。

委員 着実に達成を図っていく具体的な一つの方法として、魅力ある授業をやっていることを前面に出す必要があると思うので、「ミッションを掲げ、日々の授業展開等を通して着実に達成を図っていく」という文言の方がすんなり理解してもらえるかと思う。もう一つ、10ページで「社会全体として進路決定の時期を先延ばしする傾向が顕著」とあるが、何をもって顕著と言えるのか、ちょっと危険な言葉ではないかという気がしたがどうか。

委員 「先延ばしをする傾向があることが指摘されているが」のような表現にした方がよい。

座長 もっともな指摘であった。先ほどの、目標等を設定する取組のところは、委員の認識はどうか。基本的にはきちんとやっているが、更に検証を進めたらどうかという文言はどうか。

事務局 「目標等を設定する取組」を「目標等に基づく学校経営の取組は」という形に変えて、下の課題の部分はそのまま残す形もあるだろう。

座長 それから、先ほど指摘があった「ミッションを掲げ」と「着実に」の間に何か表現する形があり得るかもしれない。また、「施す」のところはどうか。

事務局 御指摘のとおりなので直したいと思う。

委員 9ページで「思考力や判断力といった課題解決能力」とあるが、「思考力、判断力、表現力」という言い方がよい。3つがいつもセットで使われているため、ぜひそれを入れていただきたい。

座長 なるほど。この点他の委員もよいか。ちょっと気になったのだが、9ページで『(2) 高校教育における特色のあり方について』とあるが、この「あり方」をあるべき姿と捉えると、そもそも特色にあるべき姿ということが言えるのか、ともやもやしてくる。もし委員の皆さんが気にならないのであればそれでいいが、後ろにもう一箇所「あり方について」というのがあるので、後で意見があれば発言して欲しい。それではこの学力向上についてどうか。

委員 10ページに「大学進学率が上昇し比較的進学しやすい状況が生まれている」

とあるが、これに付随するのが少子化の問題だから、もう少し丁寧に「大学進学率が上昇し、その中で生徒数は減少するなど、比較的進学しやすい」としてはどうか。「など」には大学が増えていることも含まれる。

座長 その辺、何らかの工夫はできると思う。

委員 大学進学率の上昇は少子化とは別にあると思うが、大学の定数が若干増えている中で生徒が減っていて、大学を選ばなければほぼ全入に近い状態になっている。そのような中で、ということで最後の文章に繋げて用いたい。

副座長 大学がいっぱいできたことと、ここにきて経済的な事情もあって急に大学に行く人が少なくなって、選ばなければ大学にいける状況になった。アメリカなどは大学の増加率は4%ぐらいしかないが、日本の場合は20%、30%で上がっている。この表現だと、大学進学率が上昇したから、比較的進学しやすくなって話が矛盾する。

座長 大学進学率が上昇したから進学しやすくなった、と取れてしまう。

委員 「大学進学率が上昇し」を削った方がよい。

座長 定員が増えたことも踏まえて、この文言について少し直した方がいいと思ったので、工夫をお願いしたいと思う。2節『グローバル化に対応した人材の育成について』で気付いた点があるか。

委員 一つは、最後の段落で、「海外」とあるが、具体的にどこかという話になるので、PISA型の能力などを踏まえた記述にしたほうがいいのではないか。日本の教育の特徴として、考えて判断させるところが弱いという指摘が既にあるので、そこから引いて来た方がいいというのが一点である。もう一つは、その上の段落で、やはり異文化を知ること、日本のことをちゃんと知っていないと恥ずかしいという思いが出てくる訳である。日本を知ってから異文化を知るだけでなく、異文化を知ること、日本の文化や歴史を知ろうという意欲も高まるので、その相互性を書きこんで欲しいと思う。

座長 「日本の歴史や文化を深く理解し、」のところを「異文化の認識を深めるとともに日本の歴史や文化を深く理解し、」のように並列にすればよいか。

委員 相互に影響し合うことだと思う。上のところでは、将来、日本や世界を担う人たちをどんどん外に出そうという話と、それから普通の高校生もやはり異文化理解は必要だと。異文化を理解することで、日本のことをよく知ろうという意欲も高まる相互関係があるから、普通の高校生も異文化に接することが大事だという議論ではないか。

座長 2行目に「異文化と対等な立場で認め合う」とあるが、今は対等ではないのかと突っ込みたくなる気もするが、今の意見でそれが解消するだろうか。

副座長 確かに対等ではない。全然議論ができていない。何か言われたら、その通りに受け止めて帰ってきているのではないか。

- 委員 そういう経験をすると、ちゃんと日本を学ぼうと思うので、その相互関係が大事である。
- 副座長 それだと、行ってからの話になってしまう。やはり、教育を事前にちゃんとしておかないと、出て行った人がまともに議論できない。時に、それは違う、と言えるぐらいの認識はやはり持っていないと。
- 座長 この議論はとても大事だし興味深いところだが、文言の部分で言うと2行目の「異文化と対等な」を、もう少し上に持ってくると意味が通じるようになるか。
- 委員 異文化を理解することは、一方で日本の歴史や文化を深く知り、知識を持つ意欲にもつながる、ということでしょうか。
- 座長 順番の問題ではなく、相互浸透というか両方必要ということである。
- 委員 相互関係みたいなことが欲しいと思う。
- 座長 大きな論点である。事務局にお尋ねするが、もう一度委員の皆さんに報告書を見ていただく機会はあるか。教育長に報告するのは一ヶ月以上後なので、それまでに色々調整できればいいのだが。
- 事務局 当然、委員の皆様を確認をいただきたいと思っている。ただ、印刷に一ヶ月程度の期間が必要なため、時間は限られる。
- 座長 ここは重い課題かもしれないが、もう一回、検討していただきたいと思う。グローバル化について他はどうか。なければ次に進めたいと思う。12ページの『社会的自立について』は如何か。
- 委員 前半は同じことを冗長に書き過ぎている気がする。もっとコンパクトにというのが基本にあって、その上で、最初の行は、先ほど申し上げたのと同じように修文して、その次の部分はここまで踏み込まなくてもいいのではないか。「持てないまま高校に進学している生徒も少なくない」のような表現がいいのではないか。それから「かつては」について、いつなのか、そういう事実が本当にあるのかの証明がないわけで、むしろ、子どもの成長過程には、大人との関わりの中でそういう経験、プロセスが必要である、という形にして、必要だけでもそれが十分果されていないという表現にして、その後は要らないような気がする。
- 座長 委員の判断では、どこからどこまでが要らないのか。
- 委員 その後の3行が要らないと思う。
- 座長 第3段落が要らないと。
- 委員 第3段落は要らない。第2段落は、かつてはこうだったという歴史的な話ではなくて、子どもの成長にはこういう経験が必要だけれども、現在はなかなか出来にくくなっているという表現で終わらせて、その次の3行は削って、そういう経験をすることが、社会的自立にとって基本的な要素であるという表現に

するのが一つ。自己肯定感や自己効力感を持つ経験は大事な要素であるが、キャリア教育の必要性はそれが全てではないので、中央教育審議会のキャリア教育部会でしゃべられたことをコンパクトに入れる。つまり、社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を育てることを目的としたのがキャリア教育なので、そういうキャリア教育が必要だと言われているという一文を入れる。自己効力感や自己肯定感を持つことが大事だというのは重要なポイントであるが、一般的なキャリア教育・職業教育が必要という論拠を一文入れて、後半に繋げた方がバランスがいいのではないかということである。

座長 意見はもっともであったが、他の委員はどうか。ちょっと申し訳ないが、座長の立場からすると、そういう議論が十分に懇話会で共有されたかどうかという問題もある。これは懇話会の報告文書なので、この場で共有認識すればそれは良いが、今までどうであったのかと。

委員 自己肯定感の話は出たのは間違いないが、それだけでキャリア教育、体験活動が必要というのはちょっと弱すぎる気がするので、世の中一般に言われている理由も1行付け加えた方がいいのではないかということである。

座長 有効な指摘だと思う。議論の雰囲気は伝わっていると思うが、後で読まれて耐える文章になっているかは、検討する必要があると思う。委員の修正案を参考に示していただけないか。

委員 それほどでもない。これ全体を私は否定するものでもなく、何か同じ事をまどろっこしいという気がして意見を言った。

座長 読み手の印象も斟酌する必要がある。他の委員は如何か。

委員 よくまとまっているとは思った。

座長 読みやすい。そういう良さはあると思う。

委員 13ページの最後の段落冒頭の接続詞の「よって」であるが「社会的自立に係る支援が必要な」というブロックは生徒の問題を主に置いて、その次のブロックは学校に重点を置いている。だから、「よって」という表現に違和感がある。

座長 こういう状況を踏まえて、という繋げ方だと思うが、接続詞を検討してみたい。他にどうか。ないようなので、次の『専門学科について』である。

委員 15ページで「入学後に専門分野を決めることが出来る募集形態について検討を進める」とあるが、ここは具体的に書いた方がいいと思う。例えば、括り募集というやり方があって、学科を取り外した全体で募集をして、1年生の時は共通の科目を勉強して、2、3年生になったら自分が何に向いているかが分かって学科を選ぶ。それが今非常に注目されている訳で、括り募集のことを盛り込んでいけば非常に良いと思う。

それから、全体的に、これからの専門高校がどうあるべきかがあまり書かれていない。私は最後のところに書いていただきたいと思っている。一つは、専

門高校からも多くの生徒が大学に行っているので、大学も含めた7年間の教育を見通した継続教育による将来のスペシャリストの育成や、専門高校が今までやってきた地域の産業の活性化に貢献できる人材、それから、やはり地域に若い人の労働力がないと困るから、地域の産業の基盤を担う人材の育成、という3つの方向性を入れていただければ、専門高校の今後の歩んでいく道が捉えられるかと思う。

座長 非常に大事な問題である。ただ、そういう議論が前回出ていたか。座長の立場で発言するが、報告に基づいて、更に具体的なものを検討するのだから、報告の中に具体的なものが必ずしも書き込まれなくてもいいのではないか。そうは言っても、もっともなところも多いと思うし、括り募集の検討は、書き方次第だろう。

事務局 元々、再編整備において、括り募集が新校の特長ではあった。ところが、やはり目的意識を持たないまま入学してくる生徒がいるため、高校としては、最初から細かい学科に分けて目的意識を持った子を集めたいという思いも出てきている。検証しなければならない部分があるが、括り募集は今までの方向性と同一であるため、入れても問題はないと思う。

座長 他に、大学との接続を見通した将来のスペシャリストなど色々あったが、それはまたちょっと検討してみたい。

委員 今の意見に対して、大学との連携や地域に貢献という点では賛同しているのだが、括り募集については、逆にこの書き方ではなく、募集形態という言葉は削って欲しいと思う。ここで募集形態と書いてしまうとイコールそれはほぼ括り募集を意味すると思う。入学後に専門分野を決めることについては考える必要があると思うが、どういう方法を採用かは次の段階に委ねたいと思っている。狭める必要はないので、募集形態という言葉だけは入れないで、検討する必要性がある、として欲しいと思う。現場では、括り募集が足枷になって困っているという声もある。括り募集が全てを解決する訳ではない以上、括り募集を進めてくださいと私は言いたくないので、この言葉はとっていただきたいと感じている。それからついでに、その5行ぐらい上のところで「教育内容を理解する上で大きな妨げとなっている」と言っているが、別に妨げにはなっていないので、言い方は変えた方がいいと感じている。ちょっと理解し難いというイメージだと思うし、結局そこまで妨げにはなっていないと思う。ちょっとした表現の問題である。

座長 表現を工夫する。他に何かあるか。

委員 14ページに「中学生にも専門学科の長所をPRする情報の浸透が必要である」とあるが、上に「広報に加え」や「PRが必要」とあり、文言がちょっと錯綜するので、例えば「PRする取組が必要である」というのはどうか。それ

から15ページで「労働市場の需要の状況を念頭に」とあるが、労働市場の需要の状況は全国的な大きい話になるが、地域に根差した専門高校という話が出ていたので、「地域のニーズや労働市場の需要」という文言はどうか。

座長 先ほどの指摘とも共通するものだと思う。他は如何か。

委員 14ページで、専門学科についての理解を深める旨の記述があるが、理解を深めることも大事であるが、やはり魅力を伝えるのが最優先だと思う。そして、専門学科が今抱えている課題について、ここで触れることは難しいかもしれないが、中学校の側から考えると、専門学科の魅力や内容についての理解も大事だが、やはり専門学科にこういう課題があることを中学校が理解することが重要だと考えている。だから、専門学科の課題について触れておけば、高校だけでなく、中学校も先取りして打つべき手を考えてやっていけるだろうし、それが専門学科の充実に繋がることを提言しておきたい思いが私には強い。

それから、15ページの最後であるが、ここは産業労働部との連携の話だが、明日の埼玉を担う子どもたちの観点から考えると、確固たる職業観や勤労観を育てていかなければならない。やはり高等教育だけではなく、中学校の段階でも連携してやっていかなければならないと考えた時に、教育局だけではなく他の部課との連携も含めて、キャリア教育や体験活動の見直し、中高の連携も行っていく必要があるのではないかと。高校が抱えている課題を先取りして中学校など義務教育も共有してやっていかなければならない。埼玉教育全体のことを考えれば、キャリア教育についても中高でうまく接続してやっていくことを真剣に考えないといけないし、それぞれ独自の課題ではないという認識を持たなければいけないと思う。

座長 今の2点はもちろん関連すると思う。できる限り触れていくことで他の委員もよいか。確かに、実際の議論として中高との連携も非常に強調されていた。

委員 14ページで「まだ十分に理解されていない」とあるが、学習内容だけでなく、進路実績なども本当は良いのになかなか理解されていないところがあるため、学習内容や進路実績が十分理解されていない、としたらどうか。

座長 その通りである。他には如何か。この辺で『おわりに』の検討に進みたい。

委員 第3段落の「変化を恐れることなく」は入れなくていいのではないかと。

座長 その通りである。他は如何か。

委員 先ほど、地域との連携の観点について話をしたが、ここにも「それらの取組は県立高校の中だけで完結することなく」と記載があって、地域、産業界、小中学校、大学と社会全体で取り組む、とあるが、もう少し、地域貢献といった、地域の中の行事に入っていく、小学校や中学校へ高校生や高校の教員が行って指導するといった、地域への情報発信やPRなど、地域に開かれた県立高校づくりを今後進める必要があることを入れてもらえると、より地域密着型の県立

高校ならではものが出てくると思うが如何か。

座長 『おわりに』については以上でよいか。全体を振り返って再確認をすると、事務局が作った文案に沿って今まで検討してきたが、原案にないがこのような議論があった、というのがあれば思い起こして欲しいのが一つ。もう一つは、冒頭で指摘のあった「更なる」又は「活性化」という文言を報告書のタイトルに使うことについてどうか。最後に、地域との連携、地域に開かれた高校教育について、どこかで集中的に表現する必要があるか。この3つについて議論していただきたい。まず、議論のポイントはこれで大体尽くされているか。その点はよいか。2つ目の「更なる」と「活性化」はどうだろうか。

委員 資料にある設置要綱で「さらなる県立高校の活性化や特色ある県立高校づくりを進めるにあたり、幅広い意見を」とあり、意見をいただきたいということで我々は呼ばれたと思うので、漢字と平仮名の違いはあるが「更なる」が良いと思う。

委員 本当は、タイトルで報告の内容が伝わるともっと良いと思う。ハードからソフトへ、という最後の言葉が非常に気に入っていて、再編整備から高校の教育力を高めるという話であると思う。また、地域の力を借りながら高校の教育力を高めることが伝わるタイトルだと嬉しい。ここでの議論が表に出るものがないと思う。

委員 サブタイトルを設ける方法もある。

座長 今のタイトルをメインとして、下にハイフンを付して目指すものを示す、ということか。サブタイトルという有力な意見が出ているが如何か。事務局で更に検討してもらって、メールで委員に伝えることは可能か。かなり重たい内容なので、ここである程度決めた方がよいのか。

事務局 印刷の関係で時間的な制限はあるが、意見をいただいて調整することは可能である。

座長 ひょっとするとやりとりが2回ぐらいかかるかもしれないが。

事務局 一点だけ、副座長から「活性化」という言葉について分かりづらいとの御意見をいただいた。事務局としては、今、埼玉県教育振興基本計画の第2期の策定作業をしているが、この部分はその中の一つの実行計画のような位置付けもある。その中で、「学校の活性化・特色化」という言葉をずっと使ってきているので、活性化・特色化という言葉は残しておきたいと考えている。

副座長 分かる部分もあるが、活性化となると本当はイノベーションである。もっと変えていこう、変えなければいけないけど、文章で見ると本当にそうなのかなど。行動を伴っていない。

ちょっと戻ってしまって申し訳ないが、例えば12ページに、かつては社会に貢献できる力があることを子どもたちが実感する機会があったが今はない旨

の記載がある。昔は、祖父母などもいて家に家族がいる中で、子どもたちも色んな話を聞いていた。今は、父親も母親も仕事で帰ってこない。自分で鍵を開けて家でパソコンをやっていると。これは社会全体の問題だから、どうこう言えない部分があるが、そういう状況は、子どもが社会から取り残されているようにも見えて、非常に心配である。これはもう二十数年前からそういうことがあって、家族というものが壊れてしまっている。

自分の子をデパートに連れて行って、そこでちょっとチョコレートを取って食べたりしたら、私ならその場で手を叩くか何かするが、今はそういったものが曖昧になってしまっているから、根幹はそこから直さないとなかなか難しいのではないだろうか。

座長 元に戻るが、「活性化」という言葉については不十分などころがあるかもしれないが、使ってきた経緯もあるし生かしていくことでよいか。

副座長 読んだ方々が、色々な意味で一つのものではないという理解の中で考えてくれればよい。あまり具体的に話をしてしまう方が良くないかもしれない。

座長 最後に、地域と高校の連携について、まとめて段落か項を起こすという意見があったが、これは可能か。

事務局 『おわりに』における記載を充実させる方向で検討させていただきたい。場合によっては、他の項目で記載を充実させることも検討してみたい。

委員 それで結構である。

座長 今日も有意義な、積極的な発言をいただいた。感謝申し上げます。それでは文言にかかる議論については以上とする。当初、最終的な文言の調整については私と副座長に一任していただこうかと考えていたが、調整後の案を委員の皆さんに送らせていただき、再度確認いただくことにしたい。時間的に大変かもしれないがよろしくお願ひしたい。また、内容を簡潔に整理した報告書の骨子というものも、大体慣例で作ることになっている。申し訳ないが、骨子の作成は一任いただき、できたものを委員の皆さんに送る形でやらせていただきたいがよいか。ちょっと強引で申し訳ないが。

委員 (「よい。」の声)

座長 最後に、委員の皆さんには本当に良い意見を率直に出していただき、心からお礼を申し上げます。良い報告書ができると思う。色々な分野、校種の方にお集まりいただいているが、今後、ぜひこの会議の成果をそれぞれの現場で生かしていただきたいたい。事務局も毎回色々な資料を準備していただき、支援に感謝申し上げます。本当に長い半年であったが、協力に感謝する。